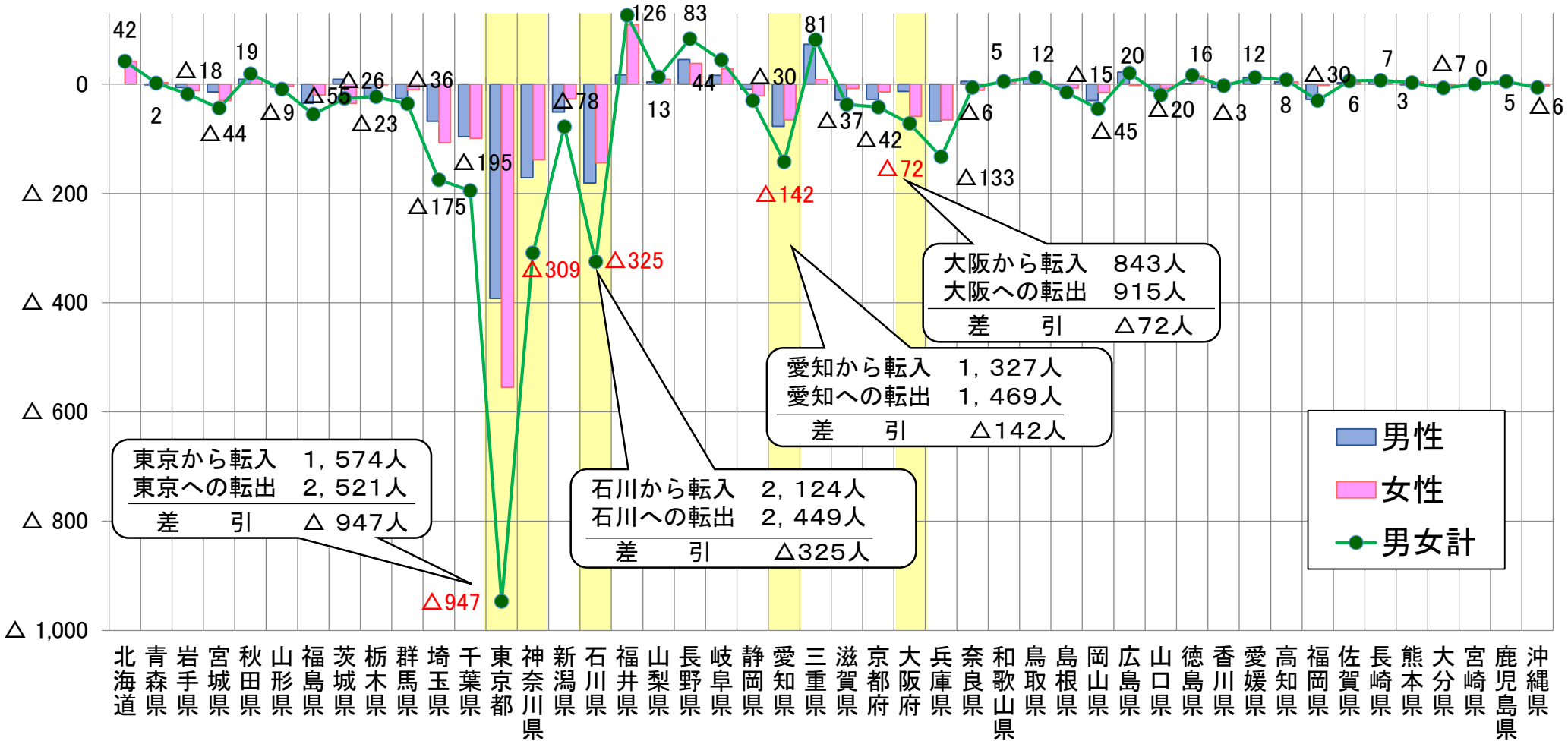


基礎資料

令和3年9月1日

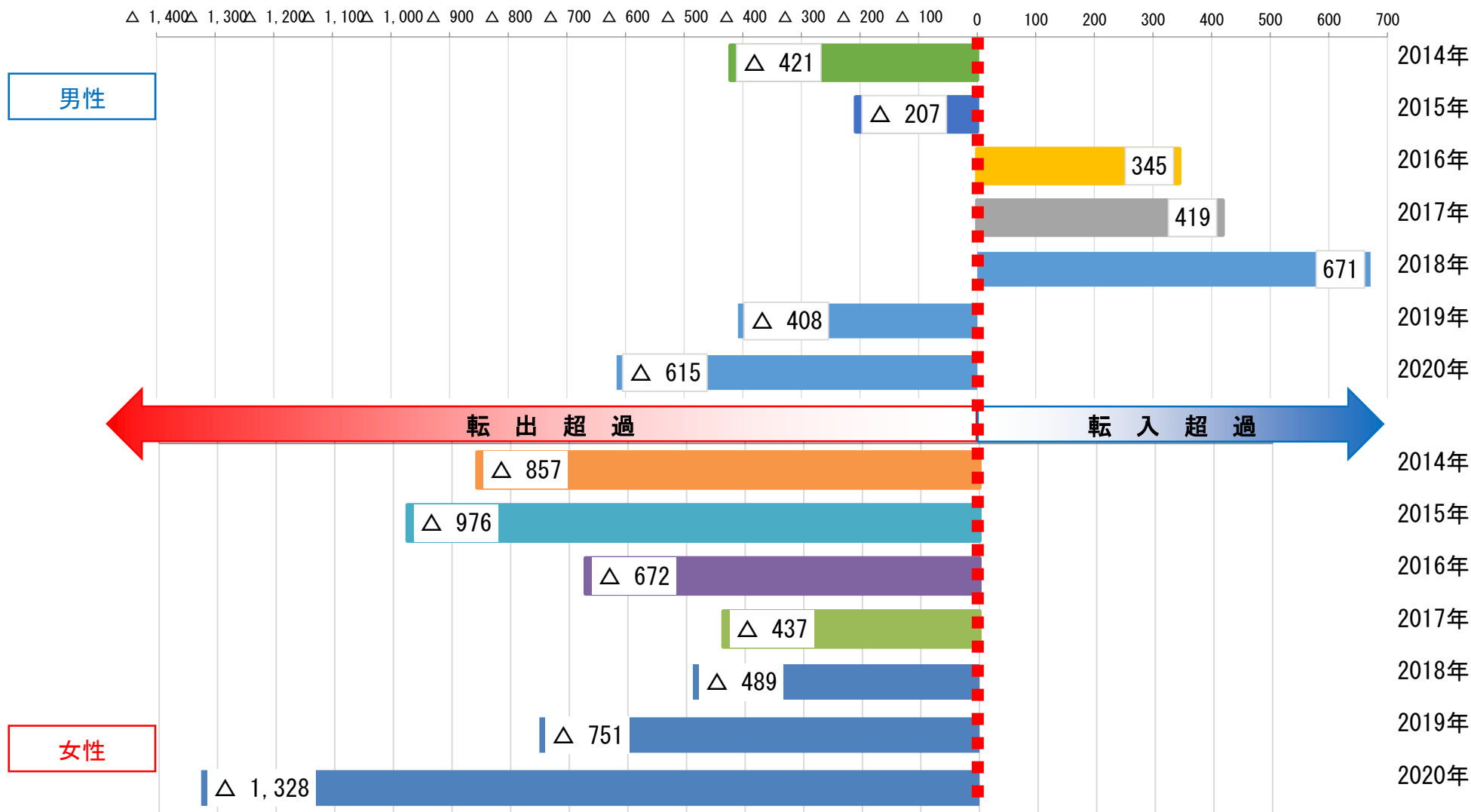
富山県女性活躍推進戦略会議事務局

富山県 都道府県別の社会動態（転入－転出）の状況



(出典) 富山県「令和元年人口移動調査」(平成30年10月1日～令和元年9月30日)

富山県 15歳～34歳の社会移動の状況（日本人+外国人）

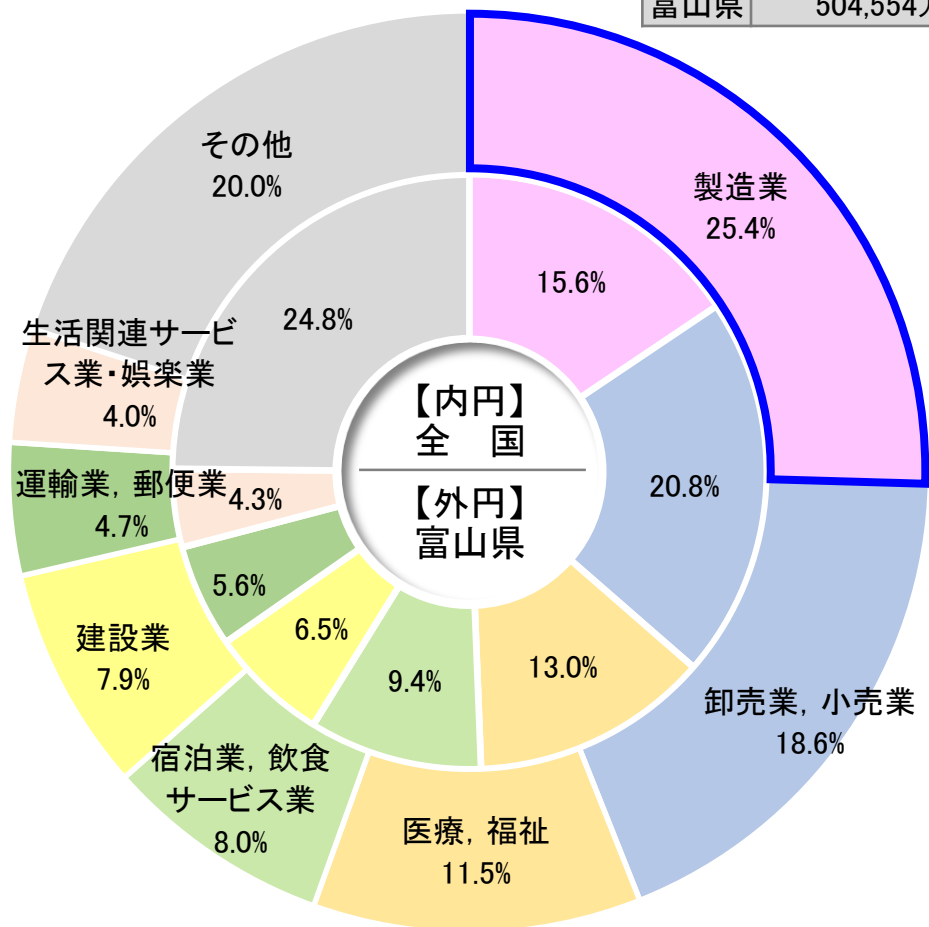


（出典）富山県「人口移動調査」（各年10月1日現在）

全国と富山県 産業分類別の従業者数と付加価値額の状況

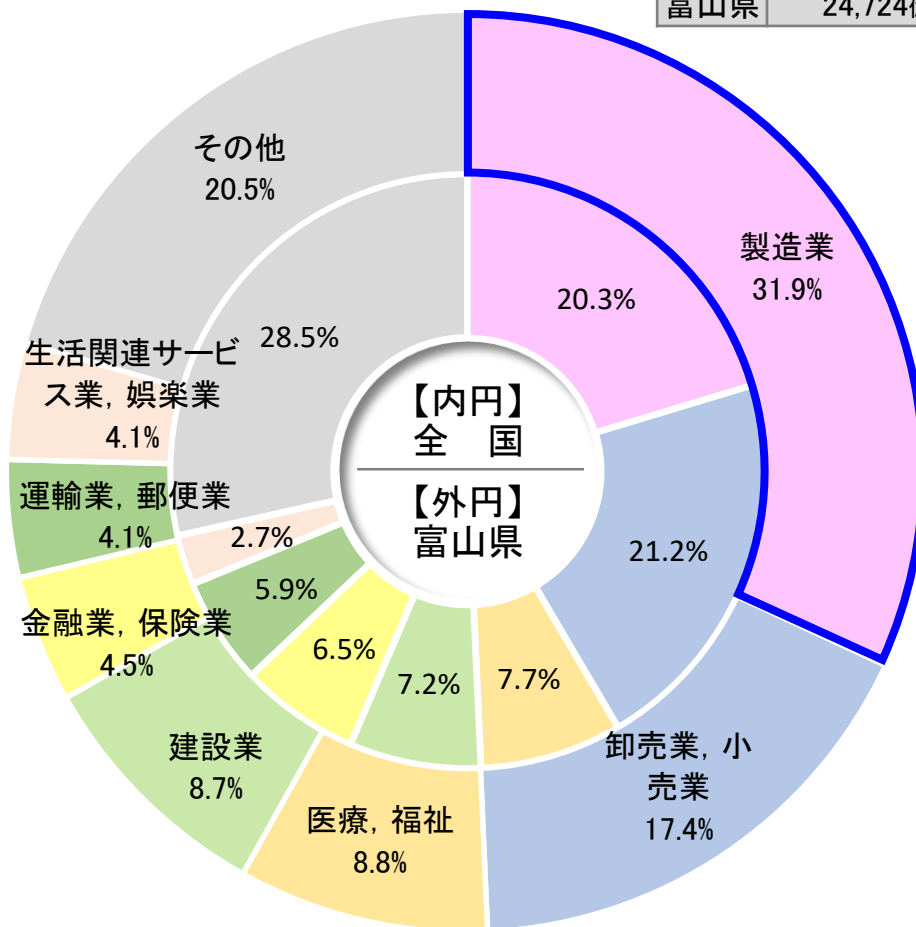
従業者数の構成比

全国	56,872,826人
富山県	504,554人



付加価値額の構成比

全国	2,895,355億円
富山県	24,724億円



産業分類別、男女別の従業者数

産業大分類男女別従業者数

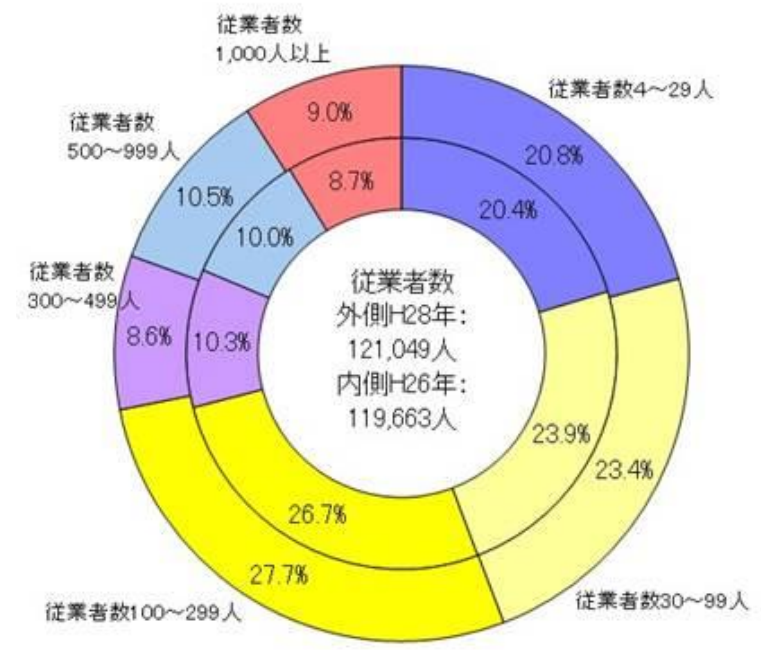
人

0 10,000 20,000 30,000 40,000 50,000 60,000 70,000 80,000 90,000 100,000

- 農林漁業
- 鉱業、採石業、砂利採取業
- 建設業
- 製造業
- 電気・ガス・熱供給・水道業
- 情報通信業
- 運輸業、郵便業
- 卸売業、小売業
- 金融業、保険業
- 不動産業、物品賃貸業
- 学術研究、専門・技術サービス業
- 宿泊業、飲食サービス業
- 生活関連サービス業、娯楽業
- 教育、学習支援業
- 医療、福祉
- 複合サービス事業
- サービス業(他に分類されないもの)

■ 男性 ■ 女性

製造業の従業者規模別従業者数の構成比



(出典) 総務省・経済産業省「平成28年経済センサス-活動調査」

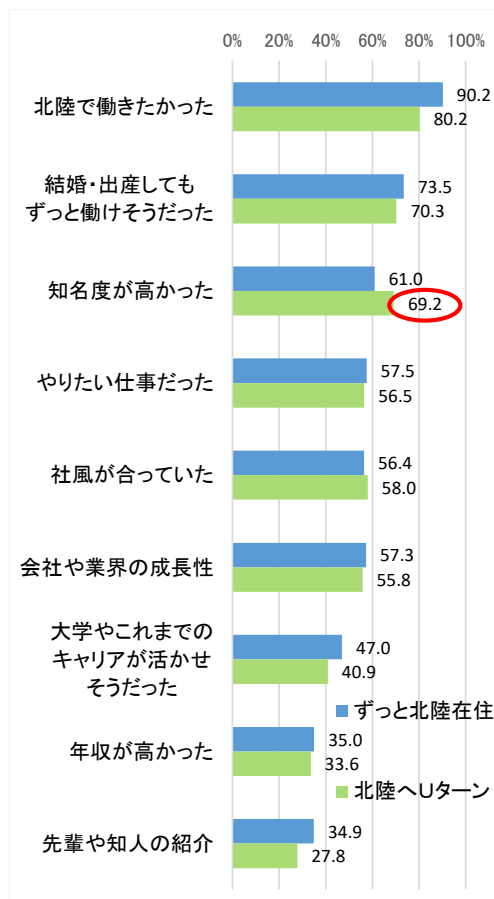
現在の組織を選んだ理由

あなたが現在働いている組織を選んだ理由として、以下の項目それぞれ「あてはまる」「あてはまらない」でお答えください。

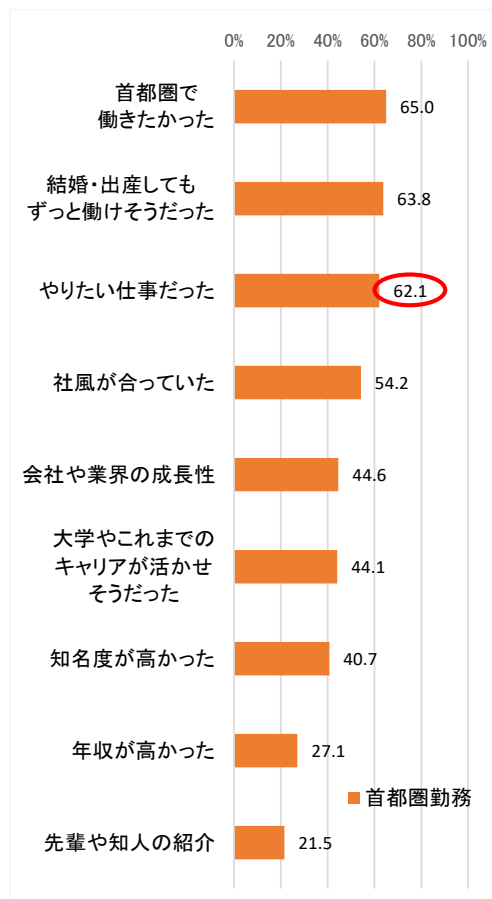
- ずっと北陸・・・①「北陸で働きたかった」90% ②「結婚・出産してもずっと働けそうだった」74% ③「知名度が高かった」61%
- Uターン・・・①「北陸で働きたかった」80% ②「結婚・出産してもずっと働けそうだった」70% ③「知名度が高かった」69%
- 首都圏・・・①「首都圏で働きたかった」65% ②「結婚・出産してもずっと働けそうだった」64% ③「やりたい仕事だった」62%

◎ いずれも理由の1位である「この地域（北陸／首都圏）で働きたかった」は、ずっと北陸が首都圏を25ポイント上回っている。
「知名度が高かった」はUターンで最も高くなっている。

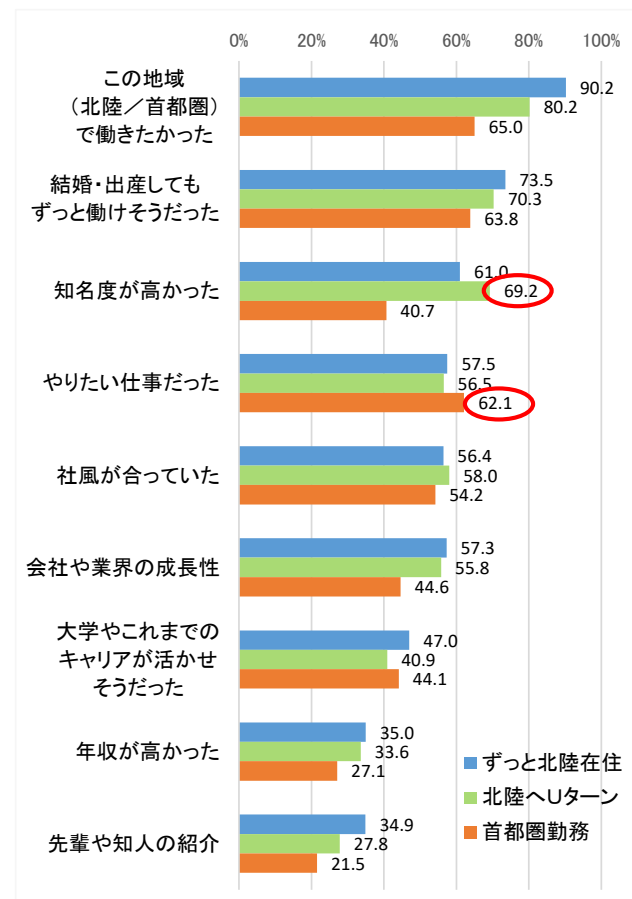
北陸（「あてはまる」上位順）



首都圏（「あてはまる」上位順）



北陸／首都圏比較



働いていく上で重視すること（重視点）

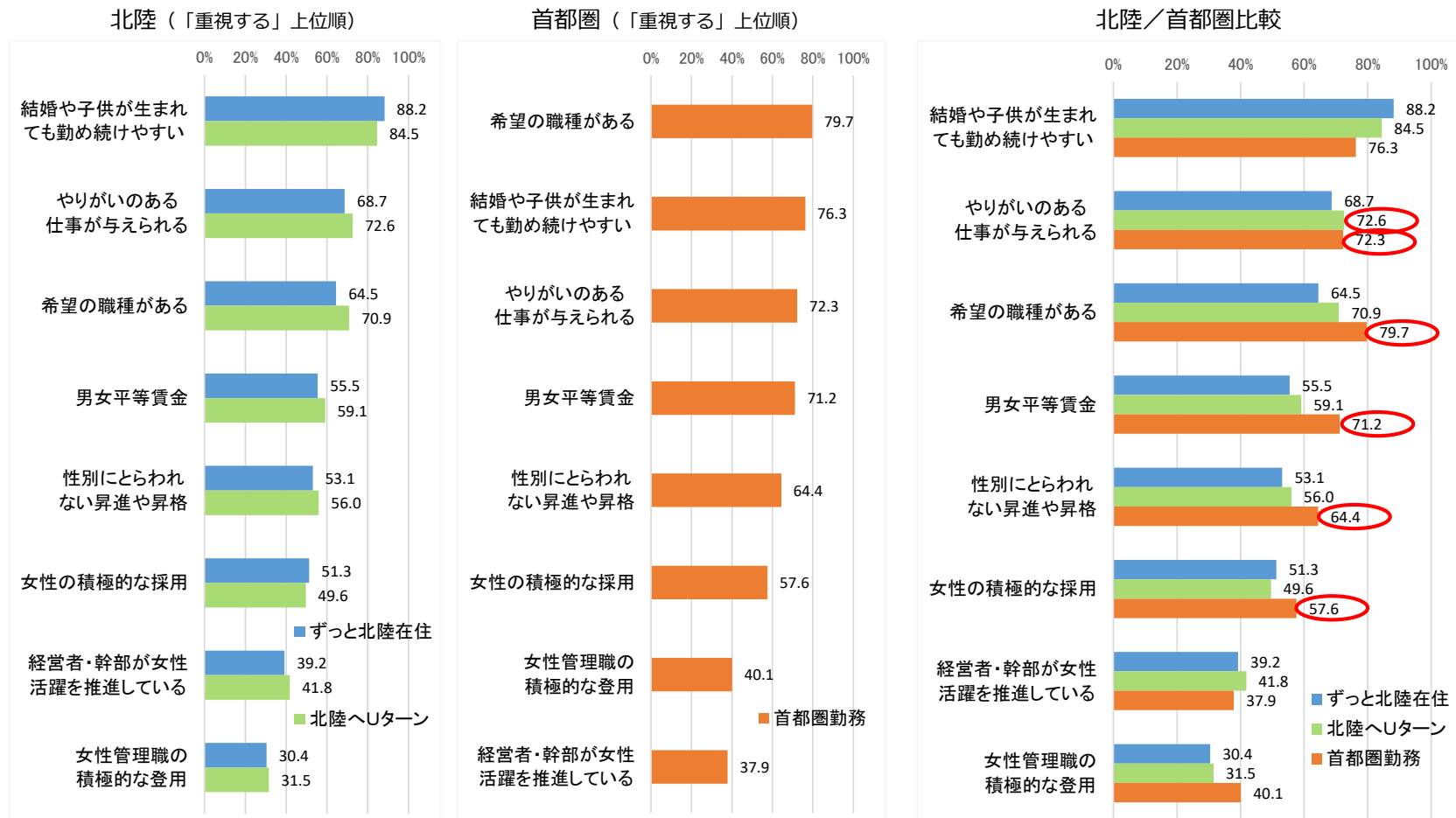
あなたが働いていく上で、以下の項目それぞれどの程度重要ですか。

- ずっと北陸・・・①「結婚や子供が生まれても勤め続けやすい」88% ②「やりがいのある仕事と与えられる」69% ③「希望の職種がある」65%
- Uターン・・・①「結婚や子供が生まれても勤め続けやすい」85% ②「やりがいのある仕事と与えられる」73% ③「希望の職種がある」71%
- 首都圏・・・①「希望の職種がある」80% ②「結婚や子供が生まれても勤め続けやすい」76% ③「やりがいのある仕事と与えられる」72%

◎北陸勤務が高い項目は、「結婚や子供が生まれても勤め続けやすい」。

首都圏勤務が高い項目は、「希望の職種がある」「男女平等賃金」「性別にとらわれない昇進や昇格」「女性の積極的な採用」。

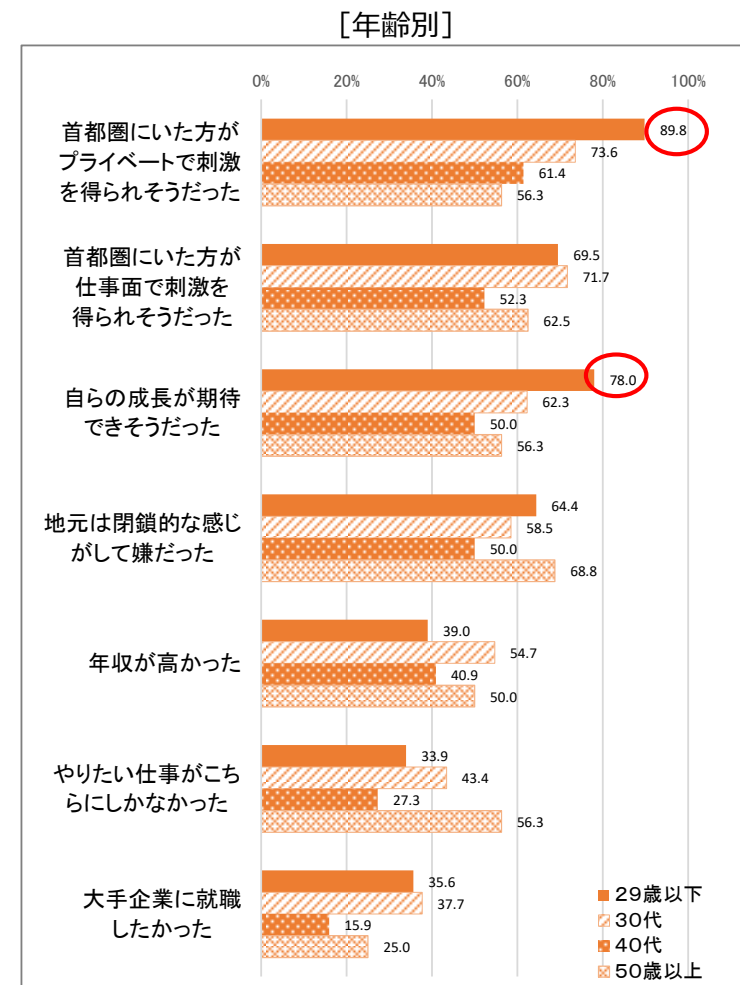
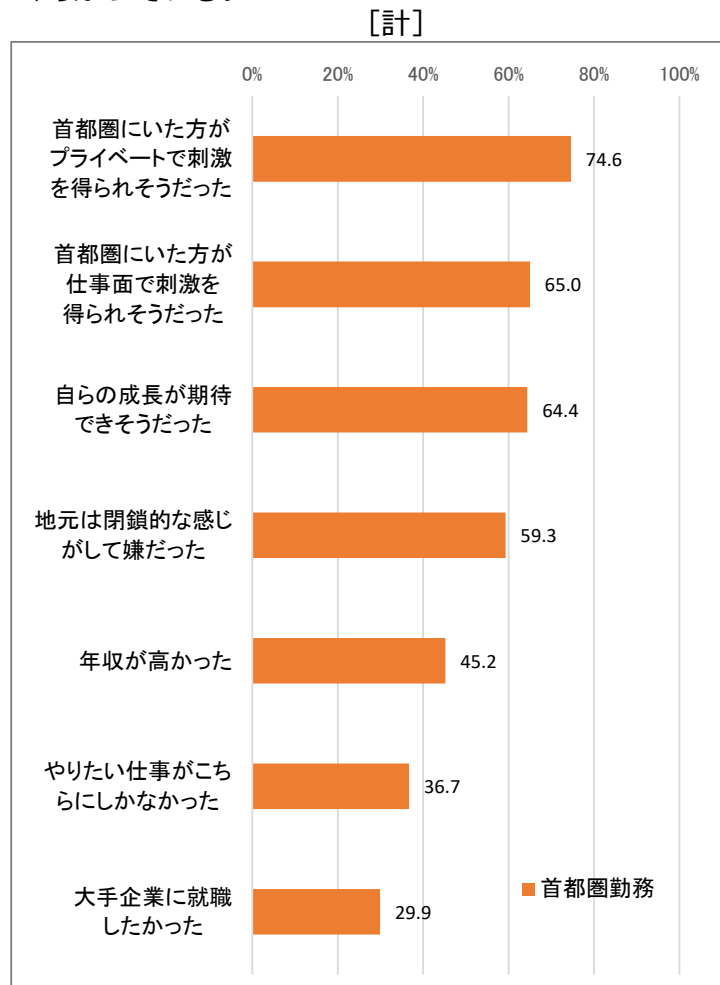
「希望の職種がある」「男女平等賃金」「性別にとらわれない昇進や昇格」は、首都圏>Uターン>ずっと北陸 の順となっている。



[首都圏勤務者に] 北陸に戻らなかった理由

北陸に戻らなかった理由として、以下の項目それぞれ「あてはまる」「あてはまらない」でお答えください。

- 「首都圏にいた方が（プライベート、仕事面で）刺激を得られそうだった」という感覚的な理由が上位にあがり、“都会に対する漠然とした期待”が首都圏で就職した要因となっている。「地元は閉鎖的な感じがして嫌だった」も59%と半数を超えている。
- 年齢別で見ると、「自らの成長が期待できそうだった」「地元は閉鎖的な感じがして嫌だった」は29歳以下と30代で多くあがっている。

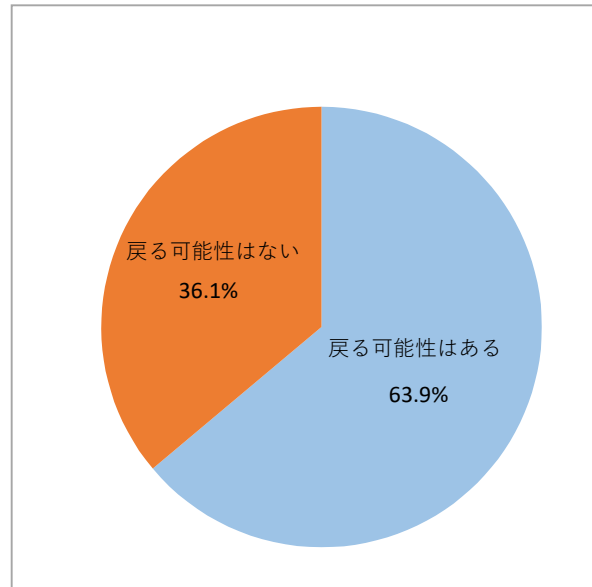


【首都圏学生に】就職のタイミングで北陸に戻る可能性 ／北陸に戻る理由・戻らない理由

就職のタイミングで、北陸に戻られる可能性はありますか。
戻る可能性がある理由として、あてはまることをいくつかも選んでください。
戻る可能性がない理由として、あてはまることをいくつかも選んでください。

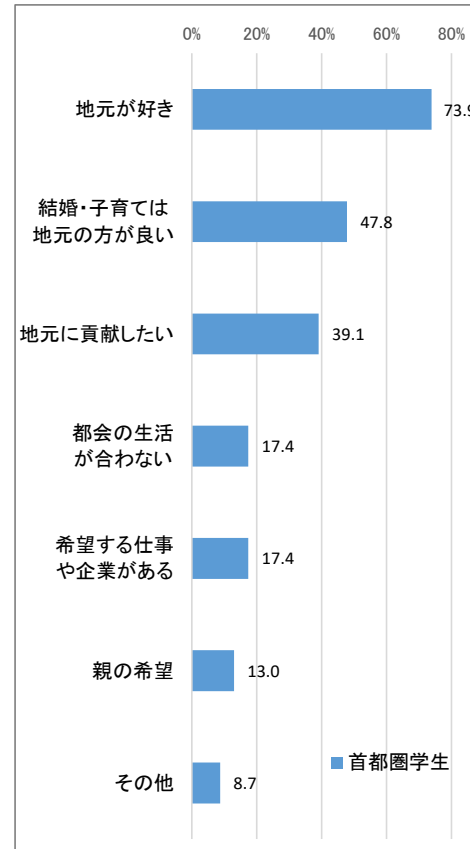
- 北陸に戻る可能性について、「可能性はある」と回答した人は全体の64%。

[北陸に戻る可能性]

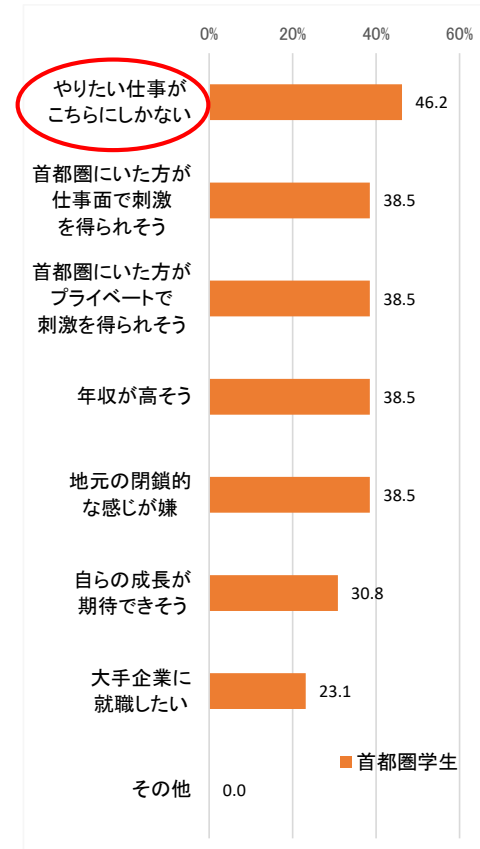


- 北陸に戻る理由としては、「地元が好き」が74%と特に多い。
- 戻らない理由としては、「やりたい仕事はこちらにしかない」が46%で最も多く、「首都圏にいた方が（プライベート、仕事面で）刺激を得られそう」が続く。

[北陸に戻る理由]



[北陸に戻らない理由]

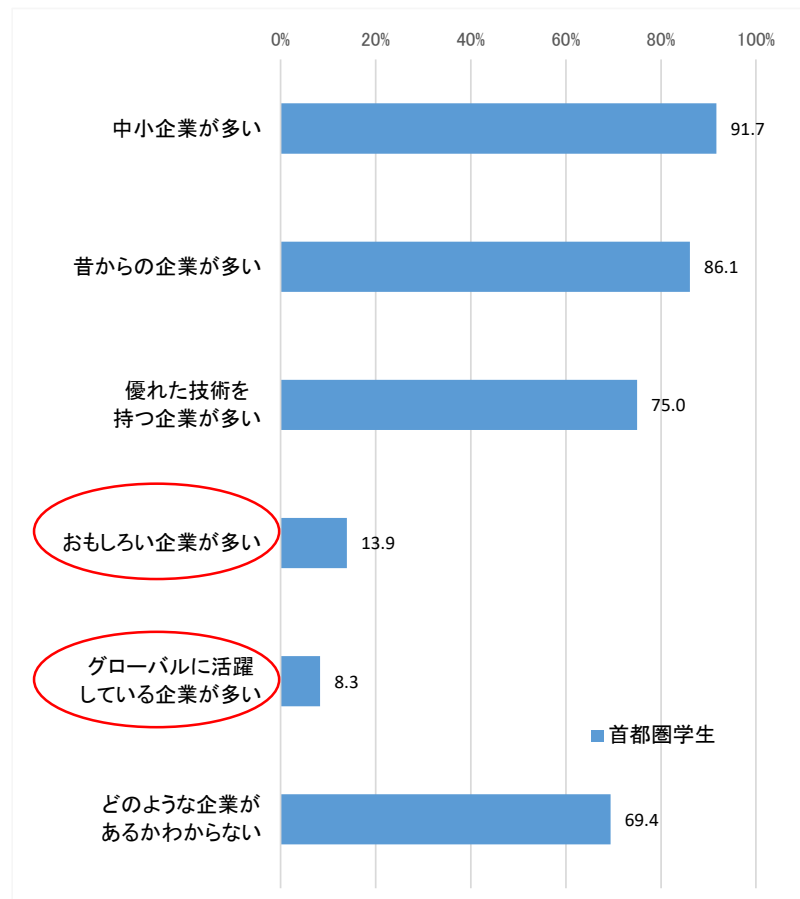


【首都圏学生に】北陸の企業に対するイメージ

北陸の企業に対するイメージとして、以下の項目それぞれ「あてはまる」「あてはまらない」でお答えください。

- 「中小企業が多い」92%、「昔からの企業が多い」86%が上位にあがり、グローバル感やユニークさは認識されていない。
- 「どのような企業があるかわからない」が69%あることにも留意する必要がある。

(「あてはまる」上位順)



女性の就業環境をめぐる状況（富山県）

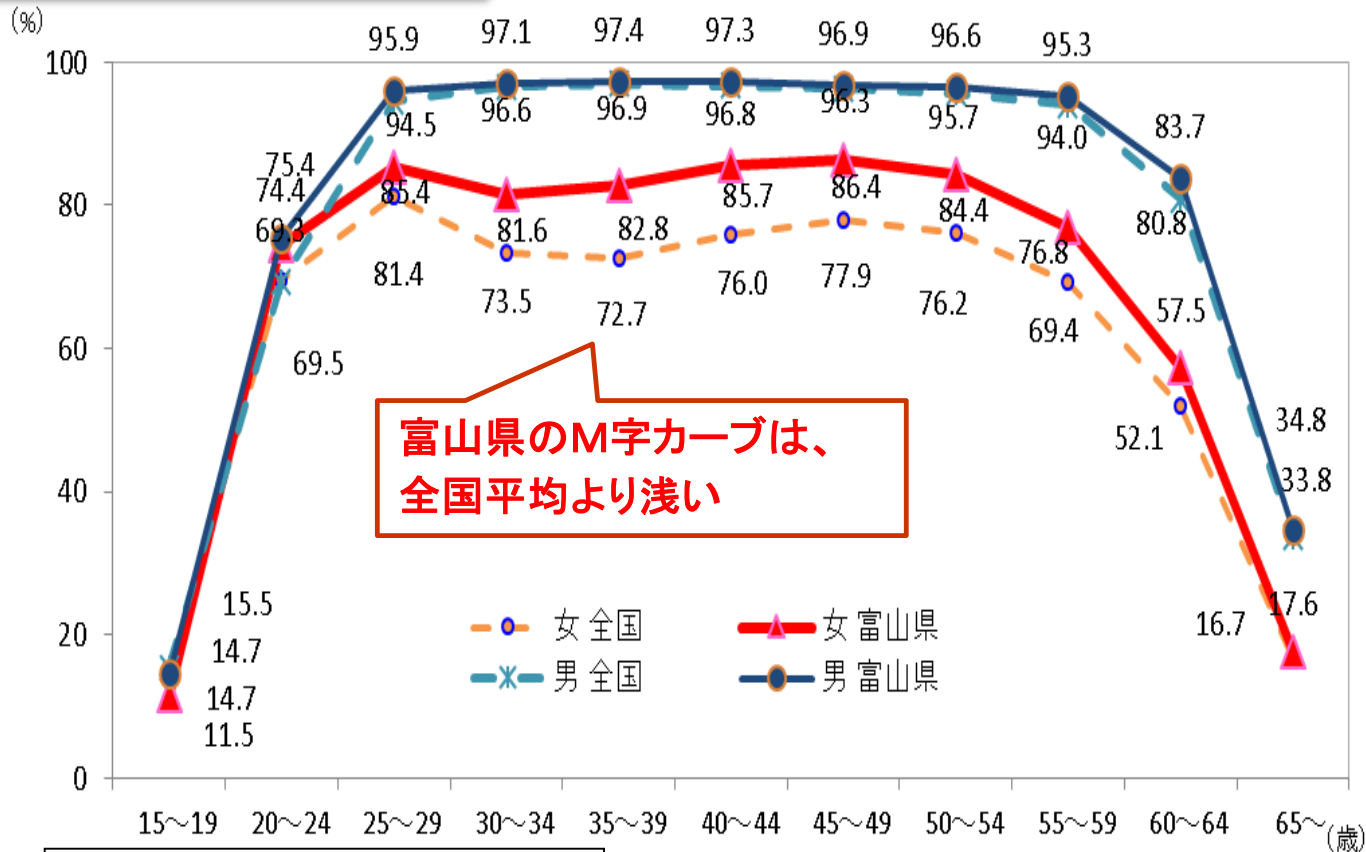
☞ 早くから工業化が進み就業機会に恵まれたことや、世帯規模が大きく、女性が育児や家事を家族に任せられたことが要因となって、女性の就業率が高い。

- ・女性の就業率(15～64歳) [H27]72.0% (全国64.9%:**3位**)
- ・女性平均勤続年数 [R2]11.6年 (全国 9.3年:**2位**)
- ・女性雇用者に占める正社員の割合
[H29]50.1% (全国42.0%:**3位**)
- ・管理的職業従事者(会社役員等含む)に占める女性の割合
[H27]14.4% (全国16.4%:**41位**)
- ・三世帯同居率 [H27]13.2% (全国 5.7%:**5位**)
- ・共働き率 [H27]55.9% (全国47.6%:**4位**)

女性の労働力の状況

女性は、出産、子育てを機に就業を中断する機会が多いことから、年齢階級別労働力率は30歳代を底としたM字カーブを描く。富山県のM字カーブの底は全国平均より浅い。

年齢階級別労働力率(全国・富山県)



富山県のM字カーブは、
全国平均より浅い

資料:総務省「平成27年国勢調査」

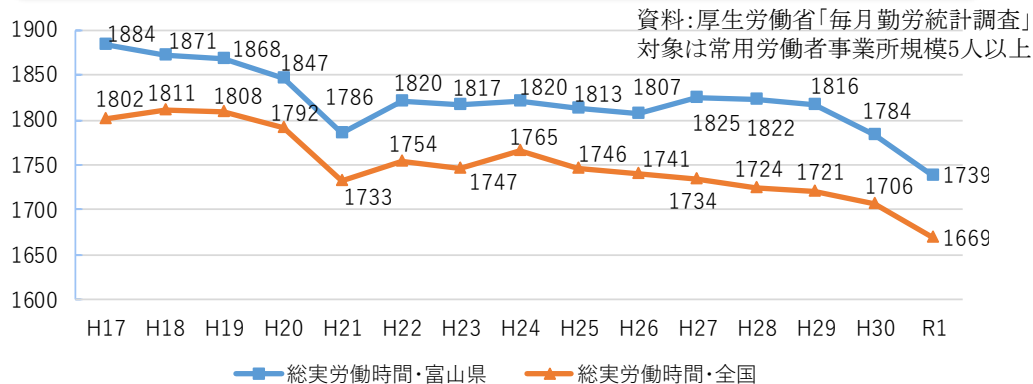
労働時間の状況

ポイント① 本県の労働者1人当たりの年間総実労働時間は、全国平均よりも長くなっている。

1週間の就業時間を年代別に見ると、男性は20～40代で週60時間以上働いている人が多い。

ポイント② 本県の年次有給休暇の取得率は伸びている(全国平均を上回っている)ものの、5割程度である。(国の目標:70%)

労働者1人平均年間総実労働時間の推移(全国・富山県)

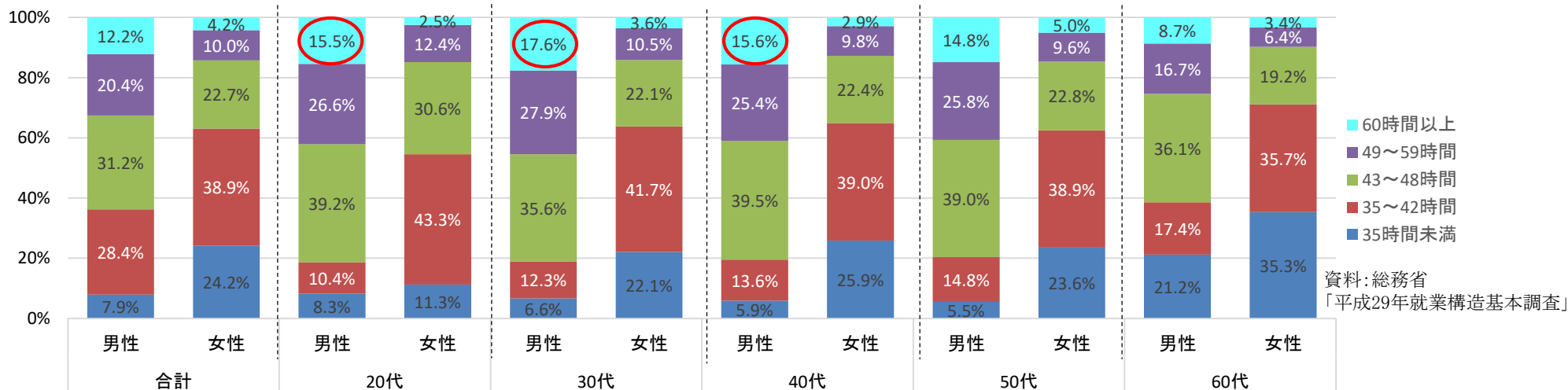


年次有給休暇の取得率の推移(全国・富山県)

年度	富山県			全国		
	付与日数	取得日数	取得率	付与日数	取得日数	取得率
R1	17.6	10.4	58.8	18.0	9.4	52.4
H30	18.1	9.5	52.5	18.2	9.3	51.1
H29	18.0	9.0	50.0	18.2	9.0	49.4
H24	17.4	8.1	46.6	18.3	9.0	49.3
H19	17.6	8.0	45.3	17.7	8.3	46.6

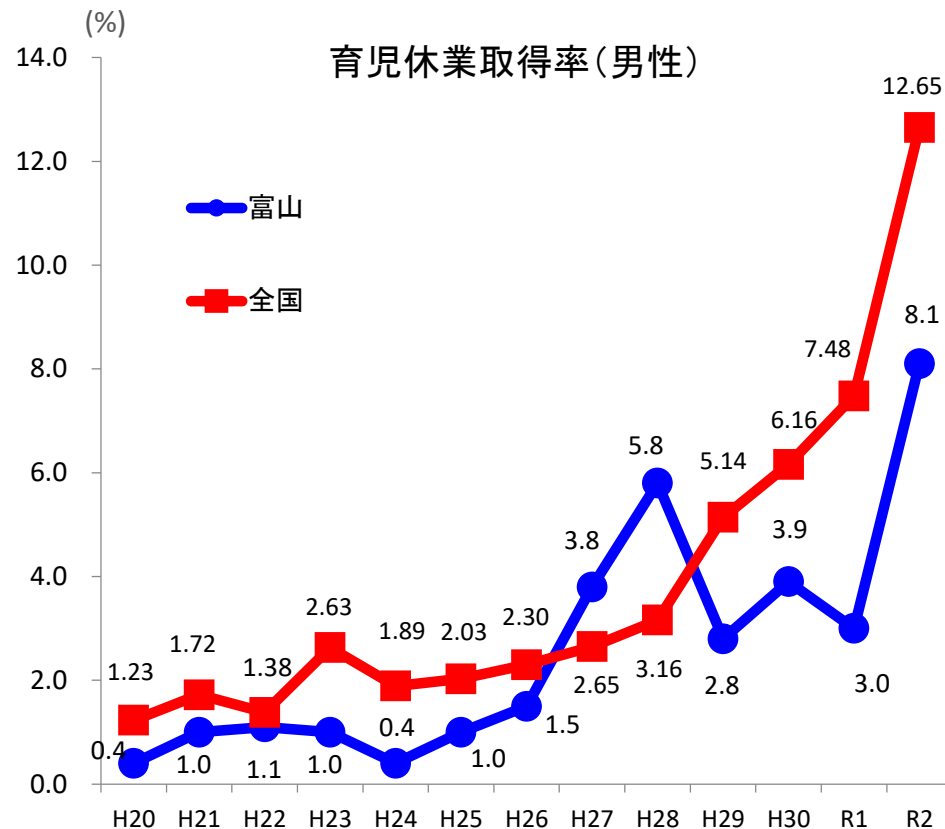
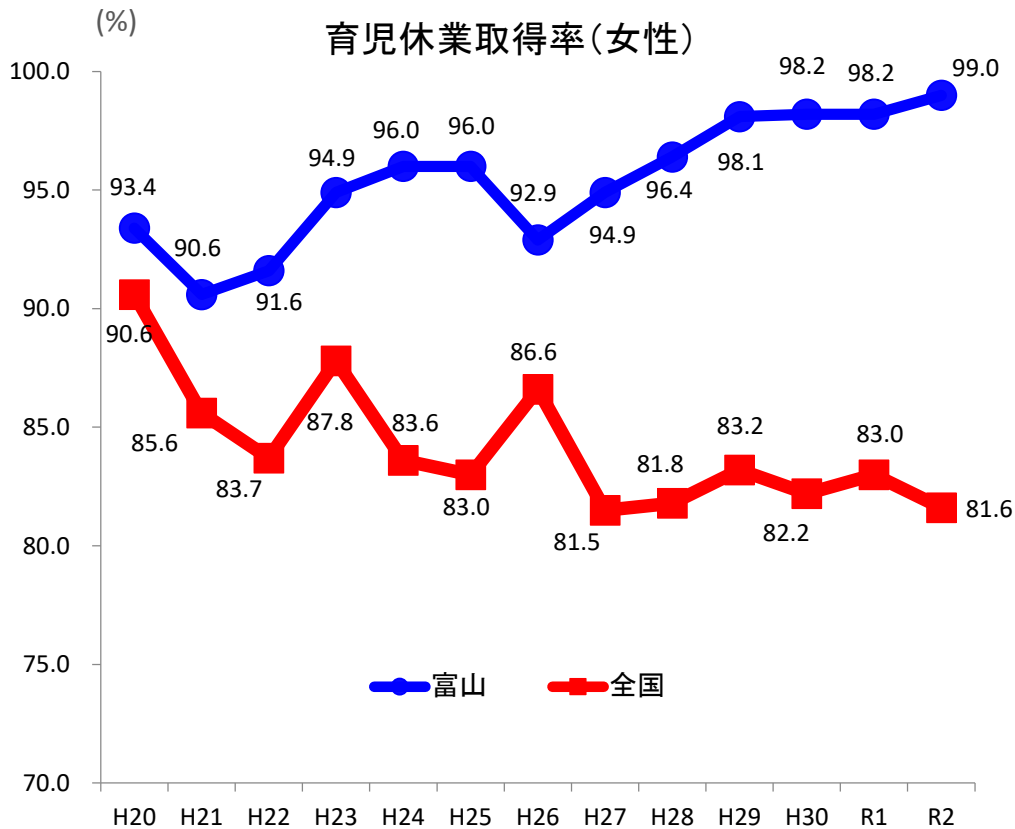
資料:(全 国)厚生労働省「就労条件総合調査」
(富山県)「賃金等労働条件実態調査」

年齢階級別1週間の就業時間(富山県)



仕事と子育ての両立の状況

育児休業の取得率(全国・富山県)

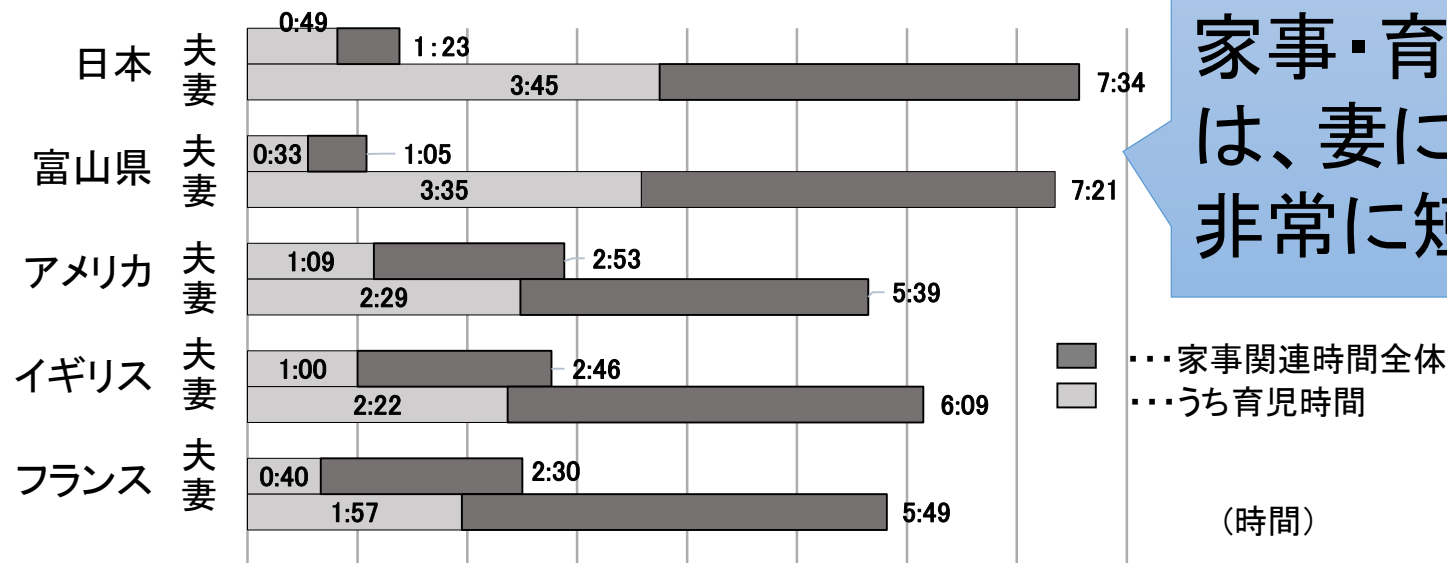


資料(全国)厚生労働省「雇用均等基本調査」
(富山県)「賃金等労働条件実態調査」

- ・近年、女性の育児休業取得率は全国平均を大きく上回っている。
- ・R2は女性の育児休業取得率が99.0%であるのに対し、男性は8.1%

男性の家事・育児参画について

6歳未満児のいる夫婦の家事・育児時間 (1日あたり)の国際比較



富山県の夫の
家事・育児時間
は、妻に比べて
非常に短い。

出典:平成29年版男女共同参画白書(内閣府)

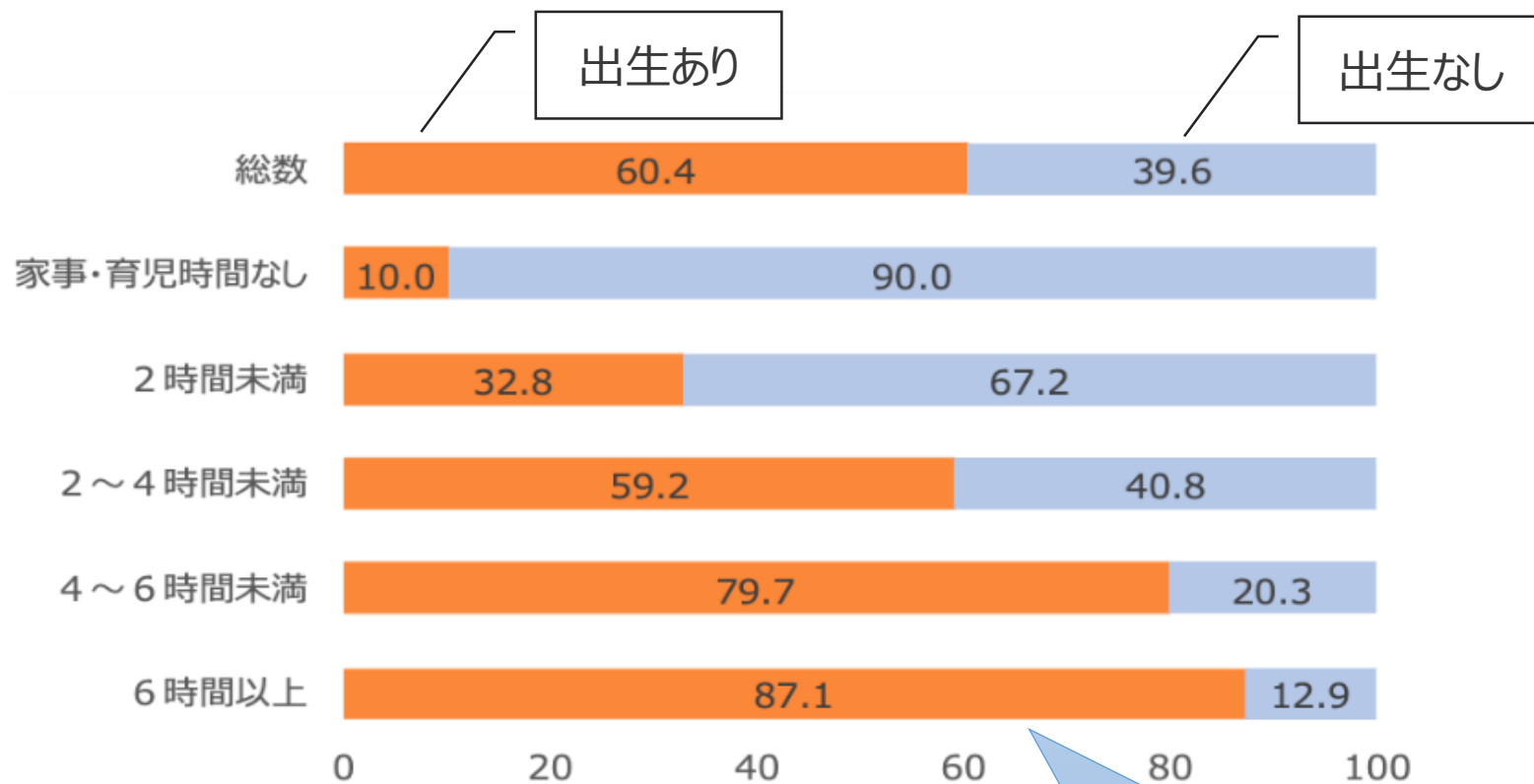
Eurostat“How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men”(2004)

Bureau of Labor Statistics of the U.S.“ American Time Use Survey”(2015)

平成28年社会生活基本調査(総務省)

男性の家事・育児時間と第2子以降の出生率

夫の休日の家事・育児時間と第2子以降の出生の状況



出典：厚生労働省「第14回21世紀青年社横断調査
(平成14年成年者)」(調査年月：平成27年11月)

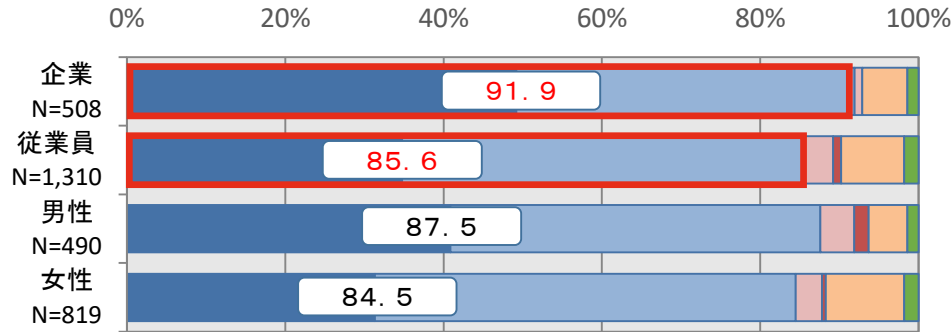
夫の家事・育児時間が長くなるほど、
第2子以降の生まれる割合が高い。

平成29年度 女性活躍推進調査の結果①

Q 職場での女性活躍推進

「積極的に推進すべき」+「どちらかというと推進すべき」

企業 91.9% 従業員 85.6%

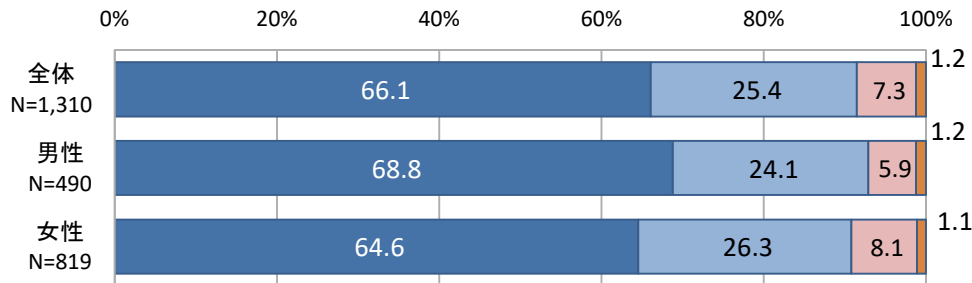


■ 積極的に推進すべきだ
 ■ どちらかというと推進すべきだ
 ■ どちらかというと推進すべきではない
 ■ 推進すべきではない
 ■ わからない
 ■ 無回答

Q 今の会社で働き続けたいと思うかについて

「働き続けたい」 66.1%

「給与や雇用形態、勤務形態、労働環境等が
 変われば働き続けたい」 25.4%

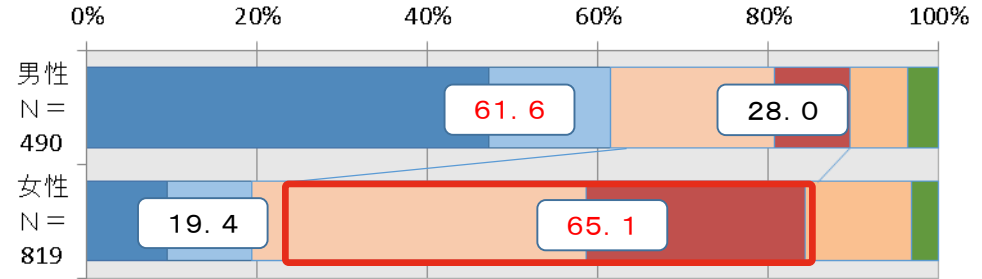


■ 働き続けたい
 ■ 給与や雇用形態や勤務形態、労働環境等が変われば働き続けたい
 ■ 働き続けたいとは思わない
 ■ 無回答

Q 管理職への登用意欲

女性 「なりたくない」 25.8%

「どちらかといえばなりたくない」 39.3%

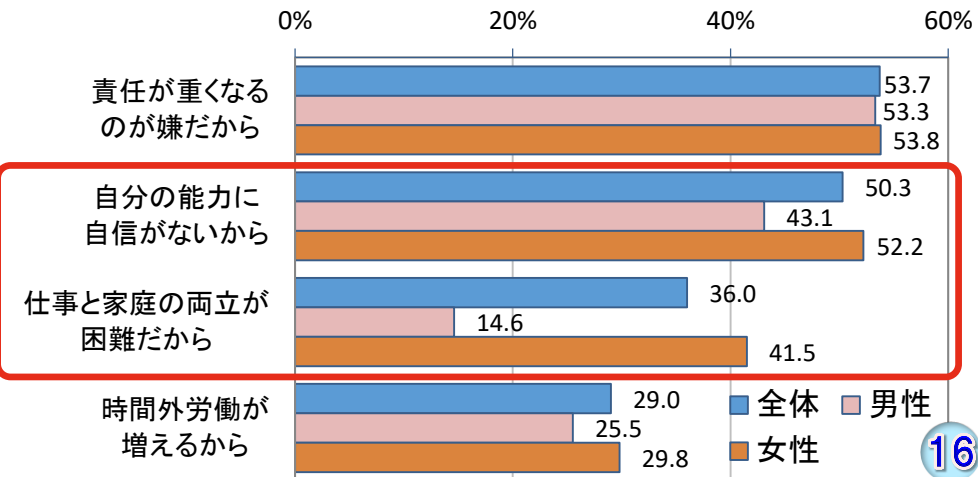


■ なりたい(又は既に管理職)
 ■ どちらかといえばなりたくない
 ■ なりたくない
 ■ 無回答

Q 管理職になりたくない理由

女性 「自分の能力に自信がないから」 52.2%

「仕事と家庭の両立が困難だから」 41.5%



平成29年度 女性活躍推進調査の結果②

Q 管理職登用意欲と就業継続意欲との関係

「管理職になりたい」人の働き続けたい理由

順位	男性 N=178	女性 N=56
1位	やりがいのある仕事だから(50.0%)	やりがいのある仕事だから(58.9%)
2位	収入を得るため(42.7%)	収入を得るため(41.1%)
3位	転職するのは不安だから(28.1%)	・仕事が楽しいから ・資格や経験を活かしたいから(32.1%)

「管理職になりたくない」人の働き続けたい理由

順位	男性 N=16	女性 N=125
1位	収入を得るため(50.0%)	収入を得るため(66.4%)
2位	転職するのは不安だから(43.8%)	転職するのは不安だから(49.6%)
3位	やりがいのある仕事だから(25.0%)	収入や職場環境に満足しているから(29.6%)

Q 女性活躍を推進するうえでの課題

【企業と従業員比較】

【男性と女性比較】

